

段々被述、奥向女中預之公家衆一人、兩傳列座にて、女中晴之御風情とかや、御口上奉りし儀も有之、中々長口上也、傳奏公私二通御内書之御請返答、從長橋殿消息一通、是女房奉書と云へり、一處に諸司へ被渡、其席にて御上使へ被付屬なり、御内書御返答文言、

御内書之趣、謹而早披閱候畢、禁裏彌御機嫌能被成御迎歲、珍重被思召、則以大友少將、織田侍從、御太刀一腰、御馬壹疋、被成御進獻也、疾々遂奏達備天覽候處、叡感未斜御事候、猶以女房奉書之旨、宜有言上候、恐々謹言、

二月幾日

資廉 保春

土屋相摸守殿、小笠原佐渡守殿、秋元但馬守殿、本多伯耆守殿、大久保加賀守殿、井上河内守殿、

右文柄ハ少宛之違ハ可有之候得共、一體如斯、殿文字、留書、名宛置所も無違○中略自分拜領御内書御受御返答は、

御内書被成下、謹而致披誦、畏入候、大樹公倍御機嫌能被成御超歲、恐懼之至存候、依之爲御賀儀御太刀一腰、御馬壹疋、令拜受之、加祐之仕合難申盡候、此等之趣、御序之刻、宜預御披露候、保春恐謹言、

二月幾日

土屋相摸守殿御老中連名具在前○中略

保春

外に女房奉書とて、長橋御局被認出一通、時に隨ひ女中之御祐筆認る事も有、其文言は、

將軍家より年の始の御祝儀とお座し候て、御太刀一腰、御馬壹疋進せられ、大友少將、織田侍從兩使を差上せられ披露申て候へば、世にくくおもしろく思しめして、此よじ能々心得候て申せとの御事にて、此よし能々心得候でお申べく候、めで度かしく、